

## 遺跡と調査の概要

**遺跡の概要** 久徳遺跡は犬上郡多賀町久徳・一円に所在する集落遺跡です。久徳遺跡ではこれまでに、多賀町教育委員会によって5回、滋賀県教育委員会・当協会によって1回発掘調査が実施されています。これまでの調査で、縄文時代晩期(約3,000~2,300年前)の土器棺墓や奈良時代~平安時代(約1,200~700年前)・鎌倉時代(約700年前)の掘立柱建物、江戸時代(約400~150年前)の茶毘(火葬場)などの遺構が検出されています。また各調査では、芹川の氾濫原と考えられる礫層や複数の自然流路が検出されていて、洪水などの自然災害と隣り合わせのなか、当地域一帯の開発を進めてきたことが明らかになっています。

久徳遺跡の所在する多賀町には、現在58ヶ所の遺跡があります。縄文時代の遺跡では、久徳遺跡のほか敏満寺遺跡で中期後葉(約4,500~4,000年前)の竪穴建物が検出されています。また、久徳遺跡に隣接する木曾遺跡(木曾・久徳・中川原)では、古墳時代前期(約1,700年前)の竪穴建物や飛鳥時代(約1,400年前)の渡来人に関する大壁造建物、平安時代(約1,100~900年前)の掘立柱建物などの遺構が検出されています。

鎌倉時代以降には、敏満寺・多賀大社などの寺社が繁栄していきます。鎌倉時代に全盛を迎えた敏満寺は、浅井長政や織田信長の焼き討ちに遭い衰退していきました。発掘調査により敏満寺の一部が室町時代(約500年前)に城郭化していたことが明らかになっています。また、鎌倉時代から室町時代にかけては、久徳城・多賀城・一円館・曾我城(木曾)・小林城(木曾)など20余りの中世城館が築かれています。

**調査の概要** 今回は、県道多賀醒井線の整備工事により新しく道路ができる箇所について調査を実施しました。調査面積は470㎡となります。調査地は久徳遺跡の西端に当たり、久徳城遺跡・木曾遺跡に隣接しています。

今回の調査では、掘立柱建物1棟と自然流路1条、複数の土坑・小穴などの遺構を検出しました。出土した遺物の年代観から、これらは室町時代(約600年前)の遺構と判断でき、当時の人々の暮らしの痕跡が明らかになりました。



図1 久徳遺跡の位置と調査範囲

## 久徳遺跡における生活の営みの痕跡

今回の調査では、複数の土坑・小穴を検出し、それらに伴って室町時代に使われていた皿・すり鉢・羽釜などの土器などが出土しました。今回の調査範囲では、検出した遺構や出土した土器の年代観から、室町時代の一時期に人々の生活が営まれていたことが明らかとなりました。その後、明治時代にかけて水田化され、また自然流路の位置の移動を経て、現在景観ができあがったと考えられます。



10～12世紀の中国のお金



そばんせき

掘立柱建物と礎板石（建物の柱の沈み込みを防ぐための石）



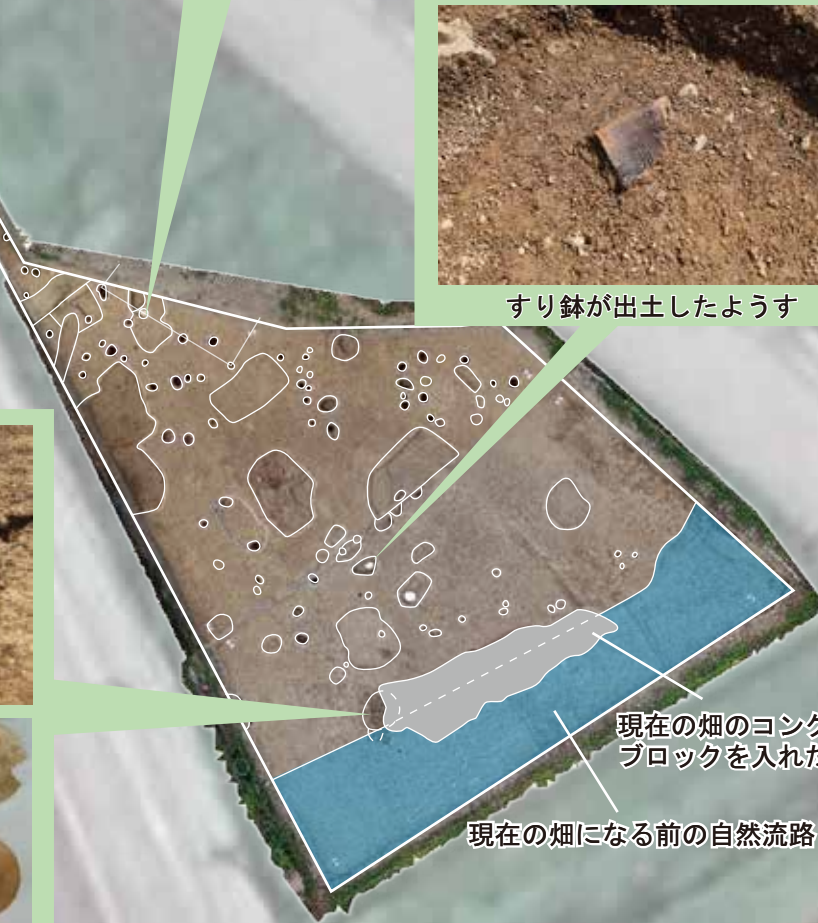
国道工事の跡



すり鉢が出土したようす



室町時代（約600年前）の土坑と  
はじきざら  
出土した土師器皿



現在の畑のコンクリート  
ブロックを入れた跡

現在の畑になる前の自然流路

